

葉いもちの初発が確認されました。

早期発見に努め、防除対策を講じましょう。

現在の状況

- 1 基準圃（北上市成田、接種）では7月4日、県中部の例年発生圃場では7月10日に、葉いもちの本田発生を確認した（図1）。
- 3 感染好適条件は、6月27日と7月5日に全県的に出現しており、今後、広域的な葉いもちの発生が懸念される（表1）。

防除対策

- 1 葉いもち予防粒剤（箱施用剤、水面施用剤、投げ込み施用剤）を施用した圃場でも発生が見られるので、圃場をよく観察し、発病を確認したら直ちに茎葉散布を行う。日当りの悪い圃場や、葉いもち予防粒剤の施用が遅れた圃場では、特に注意する。
- 2 葉いもち予防粒剤を施用していない場合は、圃場をよく観察し、葉いもちの発生を確認したら直ちに茎葉散布を行う。その後も、発生状況に応じて7～10日毎に追加防除を行う。
- 3 穂いもち予防粒剤の施用を予定している場合でも、葉いもちの発生が見られるところでは、粒剤施用の前に茎葉散布剤で防除を行う。



写真 確認された葉いもち

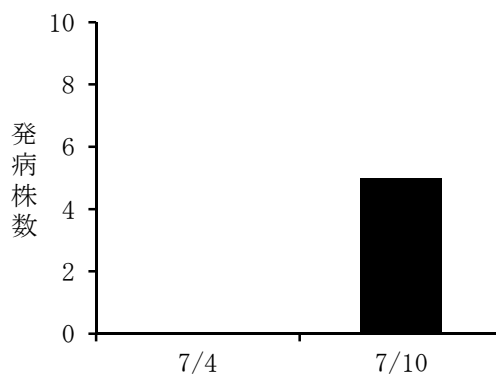


図1 いもち病の発生推移
例年発生圃場において1,800株を調査。

